

■第1回環境教育検討会 講義録－1

○長谷川先生の講座「環境教育と学校エコ改修について」

私は道庁の出先機関の北方建築研究所で、住宅とか建物とか、まちづくりの研究を行っています。私がアドバイザーとしてよばれた背景には、私がここ10年程やっている住教育というものがあると思います。

「エコ改修」というこの事業はエコ改修と環境教育との2本立てで行われることはご存じだと思います。エコ改修では学校環境の改善、環境負荷の低減をねらいとします。一方環境教育では、エコ改修後の校舎をつかった環境教育と、学校とか地域も含めた環境教育を行いますよというのがねらいになると思います。

【環境教育のねらい】

環境教育のねらいは色々ありますが1975年にベオグラードで国際環境会議が行われた際に掲げられた〈環境教育の目標〉というのがあります。「環境と、それに関連する諸問題に気づき関心を持つとともに、現在の問題解決と新しい問題の未然防止に向けて、個人及び集団で活動するための知識、技能、態度、意欲、実行力を身につける人を育成することと」されています。具体的にいうと、まず関心を持ってもらうこと、知識を身につけ環境を良くしようという態度を身につけるということ、次に環境問題を解決するための技術、また評価する力を身につけ、最終的には環境問題の解決に参加しようというものです。また、これは平成10年に文科省で提唱された、環境教育の考え方です。1. 家族、学校、地域、各々において行われる。2. 年齢、発達の各段階に応じて体系的に行われる。3. 総合的、相互関連的なアプローチで生涯学習として。4. 消費者、教育の視点。5. 地域の実態に即した課題設定を行いたいということです。

【今回の環境教育のテーマ】

環境教育のテーマは、地球環境・大気・廃棄物・科学物質・まちづくり・自然・水・土壌・エネルギー・食・環境と非常に幅広いものです。

一方で、エコ改修した校舎を使いましょうというなかで、どれだけ環境教育の分野と関わっていけるかという、言い換えればエコ改修を行った校舎で行われる教育と、環境教育が取り扱う分野との調整をつけなければなりません。

【実際の取り組み方法】

実際の取り組み方法としては、各教科の授業で行われるものと、学校生活を送るなかで取り組んでいく方法とがあると思います。総合的な学習とは、課題を見つける→調べる→自ら学ぶ→自ら考える→主体的に判断→問題を解決するというプロセスで行われます。このプロセスと先ほど言った環境教育のねらいである関心・知識・態度・技術・評価能力・参加といったものをうまく結びつける必要があると思います。総合的な学習のプロセスと環境教育のねらいをうまく結びつけることが必要になります。

【教科の話】

次に教科の話をしていきます。中学校の教科の中で、どう環境教育が行われているかという話です。まず「社会」では環境や資源・エネルギーの問題、「理科」の中では、科学技術の発展、水力・火力・原子力などの要素からエネルギーをつくる原理につい

て学びます。その他「技術・家庭科」でも自分の身の回りの環境について学ぼうということができてきます。

このように総合的な学習と、教科の学習というのをうまく組み合わせて「環境教育」という枠組みで捉えますと、総合学習でやっていることを位置づけたり、教科の中で位置づけたりすることによって、環境教育をやっているのではないかと思います。

もうひとつは学校の生活の中でも環境教育というのはあるのではないかとということです。環境形成に自ら関わることで学びにつながる部分があると思います。例えば部屋の温度をコントロールする時やゴミを巡って自分が環境とどう関わるができるのかということを考えてみたりできます。学校生活の中ででてくる環境問題への興味というのが生じた場合、それに参加する仕組みや、実際自分が参加できる建物の工夫もあると思います。今まではスイッチを入れれば終わりだったことが、これからは自分で自分の環境をつくるということで、環境への参加が進むのではないかと思います。そういう意味では「学校の生活」というものを重視しても良いと私は思います。

【学校と地域】

それから「学校と地域」ということがあると思います。学校で環境教育をやるということになると、今回黒松内でもエコ改修事業をやるにあたって先ほども教育委員会の川上さんからお話がありましたが、環境への理解を持った人を育てていくということが目標としてあって、町内の小学校、中学校、各段階でやるべきことに実際取り組んでいくんだと思うのですが、もうちょっと学校で環境教育というものを整理していくと、「地域と学校」がもっとつながをもってやっていけるのだと思います。

地域の中で、環境に対する知識や経験を

持った人が学校の環境教育実践の中に入れていけたりする。また、専門的なものは持っていないけれども、子ども達と一緒に環境について考えることができるのではないかと思います。黒松内には学校がたくさんあるのだから町内の他の学校へも情報を色々発信してみたり、学校の先生や生徒も、地域の環境に関する活動に参加してみるとか、お互いの関係がうまくゆくと、黒松内町での環境の取り組みというのがうまくいのではないかと思います。

【住環境と住教育】

住環境というのは生活するところの環境のことで、寝たり、食べたり、団欒したり、家族が一番長く過ごすところである「家」がその中心にあります。子ども達にとっては次に長く過ごす場所は「学校」であり、働いている人にとっては「会社」、「都市」であり「地域」であるということです。

そういう生活の場は、安全であり、健康であり、快適な状態でなければなりません。住教育というのは今は家庭科の中でも「住」を取り扱う部分はとても少ないですが、もっと住まいとか自分の廻りの環境に関心を持ち、それを改善していくような力をつけてもらおうというねらいをもって取り組んでいるところです。

【北海道の住宅】

北海道の住宅というのは日本のなか中でも特別だと思うのです。北海道は開拓されてから百年位しか経っていないで、歴史も浅い。住宅も住文化もまだまだ成熟していない。そういうことを改善していかないと、道民の暮らしは豊かになっていかないんじゃないかということで、住教育を行っているのです。北海道の暮らしには寒さとか雪とかいうものがあります。明治時代の屯田

兵は断熱も何もない住宅に住んでいたわけですが、だんだんと努力され、ブロック造三角屋根の、かつて日本にはなかったような住宅が建てられるようになったのです。

住宅だけじゃなくて、北海道の暮らしや文化もつくらなくてはいけない。住宅が変わったことによって、人の暮らしも変わらなくてはいけないということです。

これは居間にサンルームをつかって、夏も冬も快適に過ごそうという例であったり、これは三角屋根にすることによってできた小屋裏空間を使って自分の時間を過ごせるようにした例です。このように雪や寒さといったマイナスの要因を利用して新しい北海道の暮らし方をつくっていかうというわけです。

それだけではなく、左の写真のように、だんだん良い街並みをつくりましょうという動きがあったり、右の写真のように高齢化への対応、バリアフリーということもターゲットになっています。

【住教育に取り組んでいる例】

住教育ということで我々がやってきていることは、環境教育ととても似ているなと思います。これは中学校の家庭科の授業です。先生が説明しているのは「お弁当を買うとどの位のゴミが出ますか」ということです。生徒達は実際にお弁当を買ってきてゴミの量を学ぶわけです。もうひとつは手作りのお弁当の場合だと、これだけしかゴミは出ない。バランという小さい仕切りくらいですね。お弁当を買うことによって、どれだけ廃棄物が出ているかを考えてみましょうということを解説しています。この時はもうひとつ、環境問題について考えてみようということもやっていて、「温暖化」だとか「ゴミ問題」「森林の減少」「水質の汚染」なんかをとりあげて、学習して、自分達や世の中はどんなことをしなくちゃ

いけないだろうということを書いて貼っています。

これは別の授業ですが、中学校の技術家庭科で、その中学校で使う小屋を作りましょうというテーマです。この町では「住宅マスタープラン」のなかで住民の住意識を向上させるために、住教育に関わることをやりましょうということで、町の人が学校と連携して子ども達の住教育を手助けしています。子ども達に「何か自分達の生活のなかで足りないものはない？」、「こんなものがあつたら良いと思うものは？」と聞いてみることから始まっています。どんな小屋を作るかを子ども達に考えてもらいます。これは、それを発表しているところです。そして最終的にはゴミステーションを作ることになったのです。これは実際に作っているところです。地域の建築技術者の人達も応援に来てくれて手伝ってくれているところです。半日くらいで組み上げていて、これは地元の大工さんが手伝いに来てくれているところです。屋根は業者の方にやってもらったのですがこういう時の組み立ての釘打ちなどは生徒達が自分達でやっています。サイディングは自分達でやりました。

そして最後、できたゴミステーションを学校に引き渡しました。このようにゴミステーションを自分達で作ることによって、学校の中をきれいにできるということを学んだら、住教育の成果が上がったといえるのではないかと思います。

これは、小学校の総合的な学習の中で行ったものです。ここは校舎も古くて、建替えたいくらいなのですが、今、子ども達は廊下や階段の段差を測ったり、学校のあちこちを調べています。調べた結果を踏まえて、学校の改造計画をつくっています。どこが悪くて、どういうふうに改善したらいいかという色々なアイデアをグループ

ごとに考えています。

この人は、地元の建築士なのですが、子ども達はそのアイデアをもとに模型をつくる時に色々アドバイスしてくれて、手伝いをしてれています。

グループによって色々違いますが、学校の敷地全体を含めたアイデアを考えるグループもあれば、体育館をこうしたいとか、食事する部屋はこれがいいとか考えるグループもあります。最初は言葉で書いていたものを、最後は形にするということです。

これは図書室で、図書室がこういうふうになってほしいというアイデアです。

以上がこれから行う環境教育のサンプルになるものです。

今日はこの後、ワークショップで「水の旅」を行いますが、次回行う予定としてはここに書いてあるのですが、もっと皆さんのアイデアを聞いてやっていきたいと思っています。

～今後の予定～

○環境教育でどんな力をつけさせたいか。

(学習目標)

○何が黒松内中学校のテーマとなるか

○プログラムのアイデア、体験学習、
テーマ

○どういう関わりができるか

ということについて話しをしていこうと思っています。

以上、これからの環境教育への取り組みというテーマでお話しさせていただきました。